

(2) 土地利用に関する現状

1) 夜間人口(総人口、性・年齢・地域別区分)

立川市の人口は増加を続けていましたが、平成22年ごろから人口増加が鈍化し、平成25年には減少に転じました。平成25年1月1日時点の立川市の総人口は約178千人となっています。その後、平成27年には再び人口が増加しています。

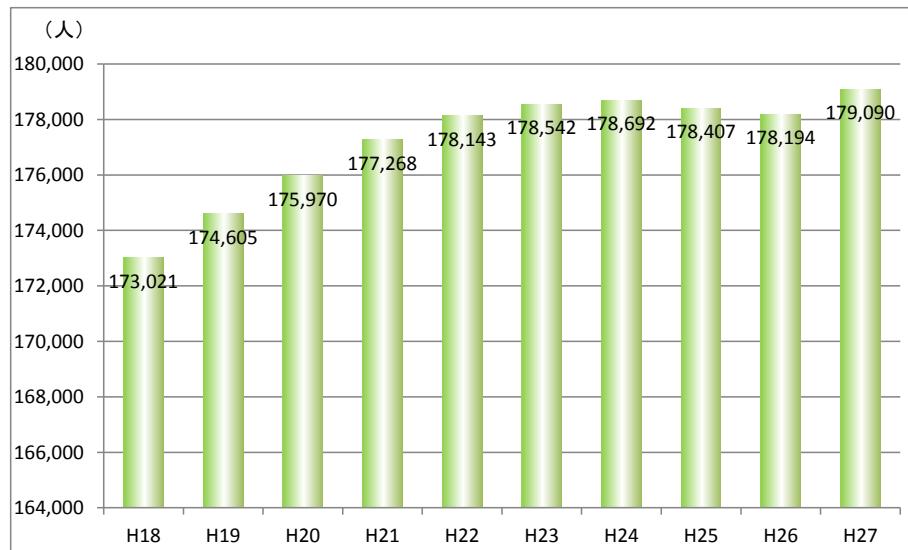


図 2-17 立川市の総人口の推移

※各年1月1日現在。外国人を含む。

資料：「世帯と人口」（立川市市民生活部市民課）

平成 18 年以降の年齢 3 階層別人口の割合は、15～64 歳の割合が減少傾向、65 歳以上の割合が増加傾向にあります。また、0～14 歳の割合はほぼ横ばいか微減傾向であることから、少子化よりも高齢化の進行が進んでいることが窺えます。平成 25 年 1 月 1 日時点での高齢化率は、21.8% となっています。(※平成 26 年以降の人口データには外国人を含むため、それ以前との単純な比較はできません。)

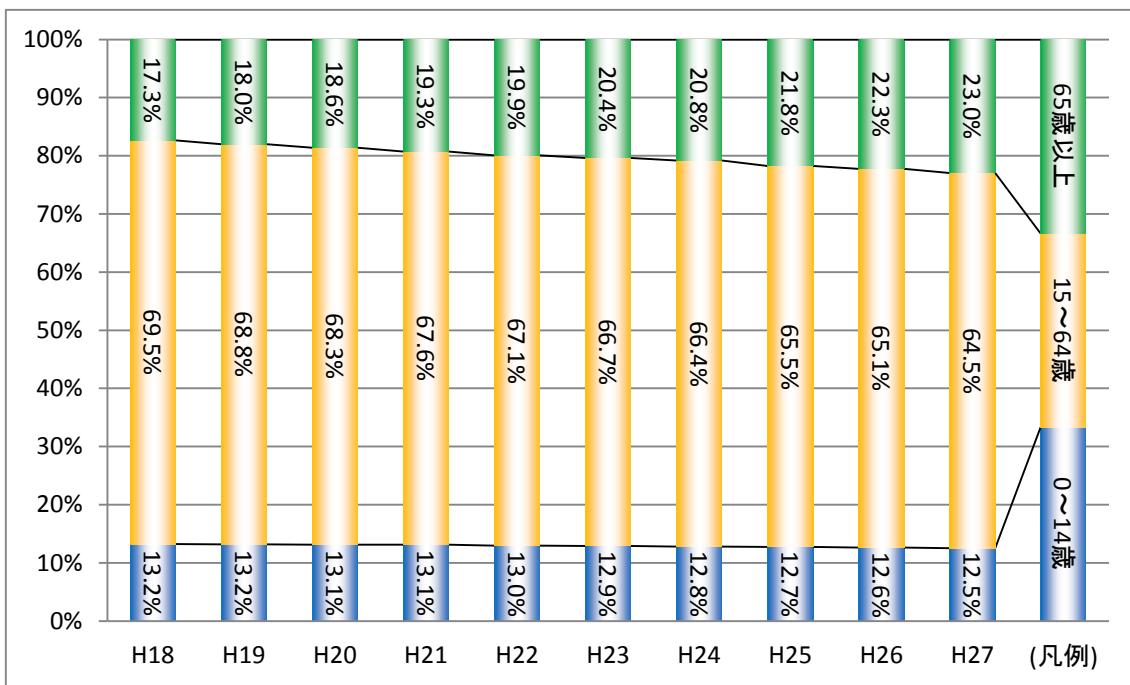


図 2-18 立川市の年齢 3 階層別人口の推移

※各年 1 月 1 日現在。H26 年以降については、外国人を含む。(住民基本台帳法の改正により)

資料：「住民基本台帳年齢別世帯と人口」(立川市市民生活部市民課)

表 2-4 立川市の年齢 3 階層別人口の推移

	(人)									
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
0～14歳	22,430	22,601	22,608	22,759	22,594	22,555	22,454	22,286	22,456	22,423
15～64歳	117,904	117,883	117,794	117,413	117,082	116,753	116,238	114,736	116,047	115,525
65歳以上	29,434	30,841	32,145	33,520	34,782	35,612	36,496	38,091	39,691	41,142
合計	169,768	171,325	172,547	173,692	174,458	174,920	175,188	175,113	178,194	179,090

※各年 1 月 1 日現在。H26 年以降については、外国人を含む。(住民基本台帳法の改正により)

資料：「住民基本台帳年齢別世帯と人口」(立川市市民生活部市民課)

立川市の5歳階級別人口ピラミッドでは男女ともに、40～44歳と60～64歳の2つのピークが存在します。人口の男女比はほぼ1：1ですが、年齢層別でみると25～54歳までは男性の方が10%以上多くなっています。55歳以上では年齢層が上がるにつれて女性の割合が高くなっています。

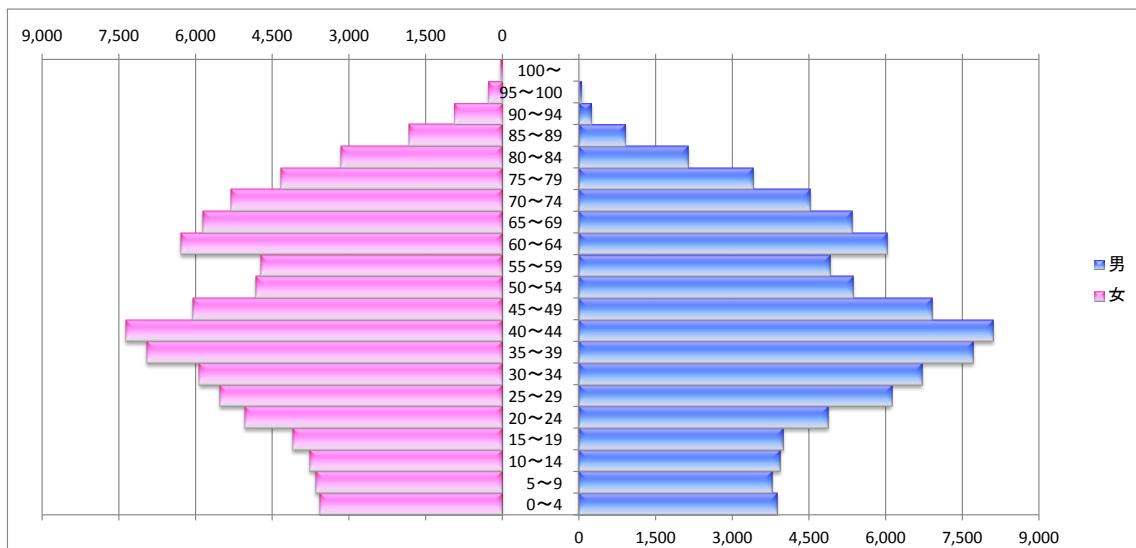


図 2-19 立川市の人団ピラミッド(市全域)

※H25. 1. 1 現在。外国人を含む。

資料：「世帯と人口」(立川市市民生活部市民課)

5 地域別にみると、中央地域以外では男女ともに 40～44 歳、60～64 歳の 2 つのピークが存在しますが、中央地域では男性は 25～29 歳、女性は 35～39 歳にピークがあり、他地域と異なる傾向があります。男女比についても、南地域、北部東地域、北部中央地域では女性の方が 2～3 % 多いのに対し、中央地域では男性の方が 10 % 近く多くなっています。

以上を整理すると、中央地域は他の地域と比較して若い世代の割合、男性の割合がそれぞれ高く特徴的な性年齢構成になっています。

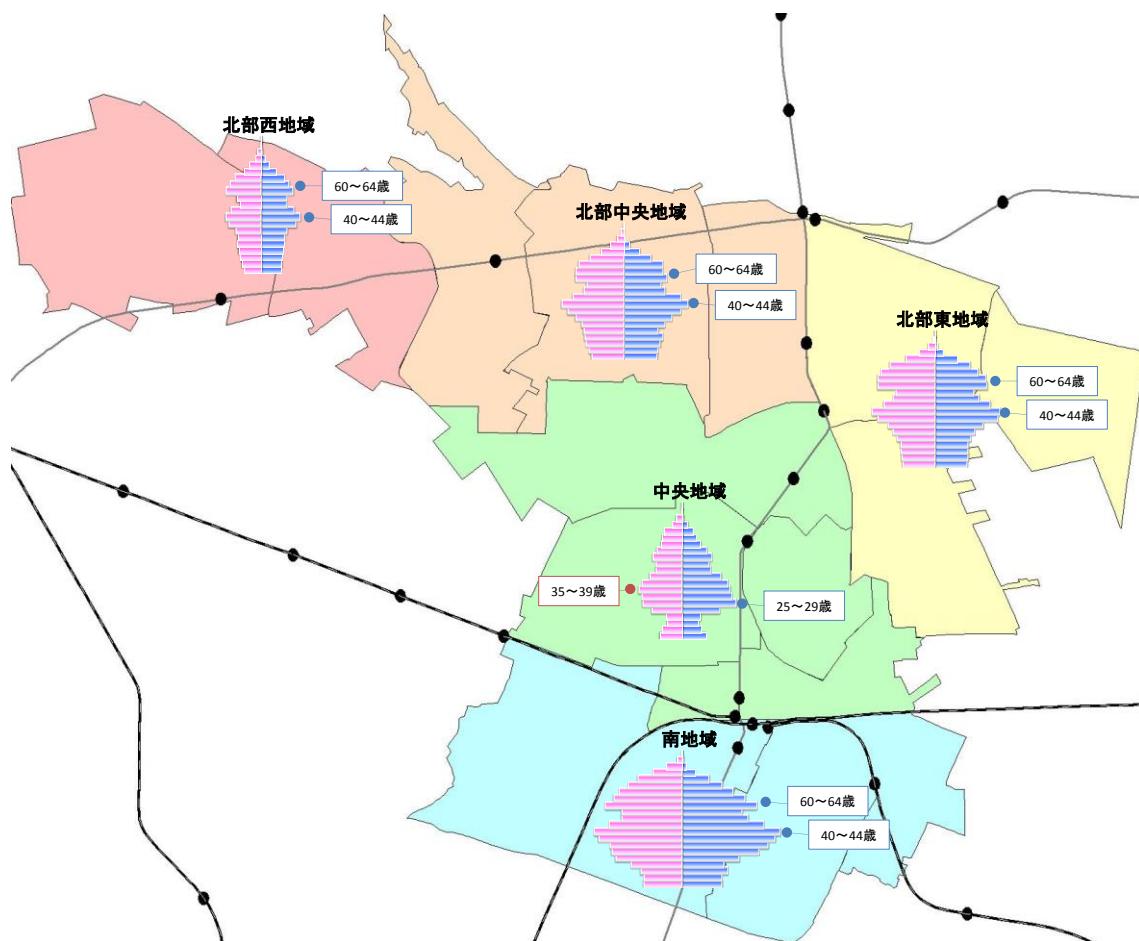


図 2-20 立川市の人口ピラミッド(地域別)

※H25. 1. 1 現在。外国人を含む。

資料：「世帯と人口」(立川市市民生活部市民課)

55～64 歳の人口は約 22,000 人で総人口の 12.3% となっており、今後 10 年間で現在の総人口の 10% 以上が新たに高齢者となることが見込まれます。高齢化率には性差や地域差が見られますが、55～64 歳人口の率では性差ではなく、北部西地域がわずかに高い傾向がある程度で地域差もあまり見られません。

表 2-5 立川市の地域別・性別の高齢者及び 55～64 歳人口の状況

地域	性別	A: 55～64歳	B: 65歳以上	C: 総人口	A/C*	B/C*
		高齢者予備軍	高齢者			高齢化率
南地域	男	3,507	5,171	27,569	12.7%	18.8%
	女	3,520	7,146	28,145	12.5%	25.4%
中央地域	男	1,472	1,915	13,253	11.1%	14.4%
	女	1,383	2,504	12,089	11.4%	20.7%
北部東地域	男	2,371	4,183	19,114	12.4%	21.9%
	女	2,444	5,330	19,793	12.3%	26.9%
北部中地域	男	2,103	3,334	8,111	11.6%	18.4%
	女	2,158	4,328	8,708	11.5%	23.1%
北部西地域	男	1,493	1,995	10,884	13.7%	18.3%
	女	1,500	2,403	10,741	14.0%	22.4%
立川市	男	10,946	16,598	88,931	12.3%	18.7%
	女	11,005	21,711	89,476	12.3%	24.3%

*平均値(性別)を上回る地域を着色

※H25. 1. 1 現在。外国人を含む。

資料：「世帯と人口」（立川市市民生活部市民課）

夜間人口の分布

① 全年齢

立川都市圏では、鉄道や路線バス等の公共交通軸に沿った地域や村山団地・けやき台団地などの住宅団地に人口が集積しています。

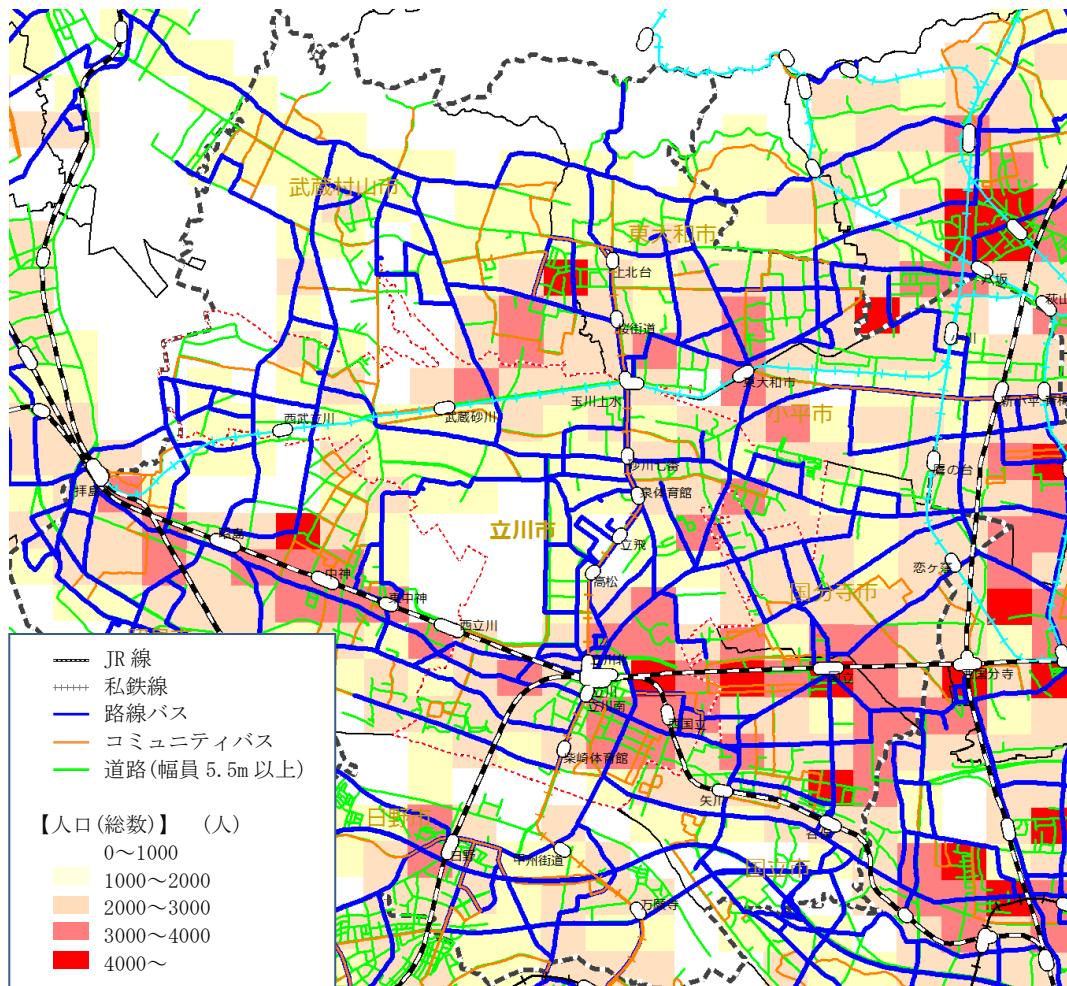


図 2-21 立川都市圏における夜間人口の分布状況

資料：バス路線：国土数値情報(H23)

：道路：デジタル道路地図(H25)

：国勢調査(H22) 4次メッシュ夜間人口

※この地図は、財団法人日本デジタル道路地図協会のデータベースを使用して作成したものである。

② 高齢者

立川都市圏では、1980年代以前に建設された住宅団地の周辺等で高齢者人口が多くなっています。リタイア層の増加によって、通勤目的移動の減少と日中の私事目的移動の増加が想定されます。

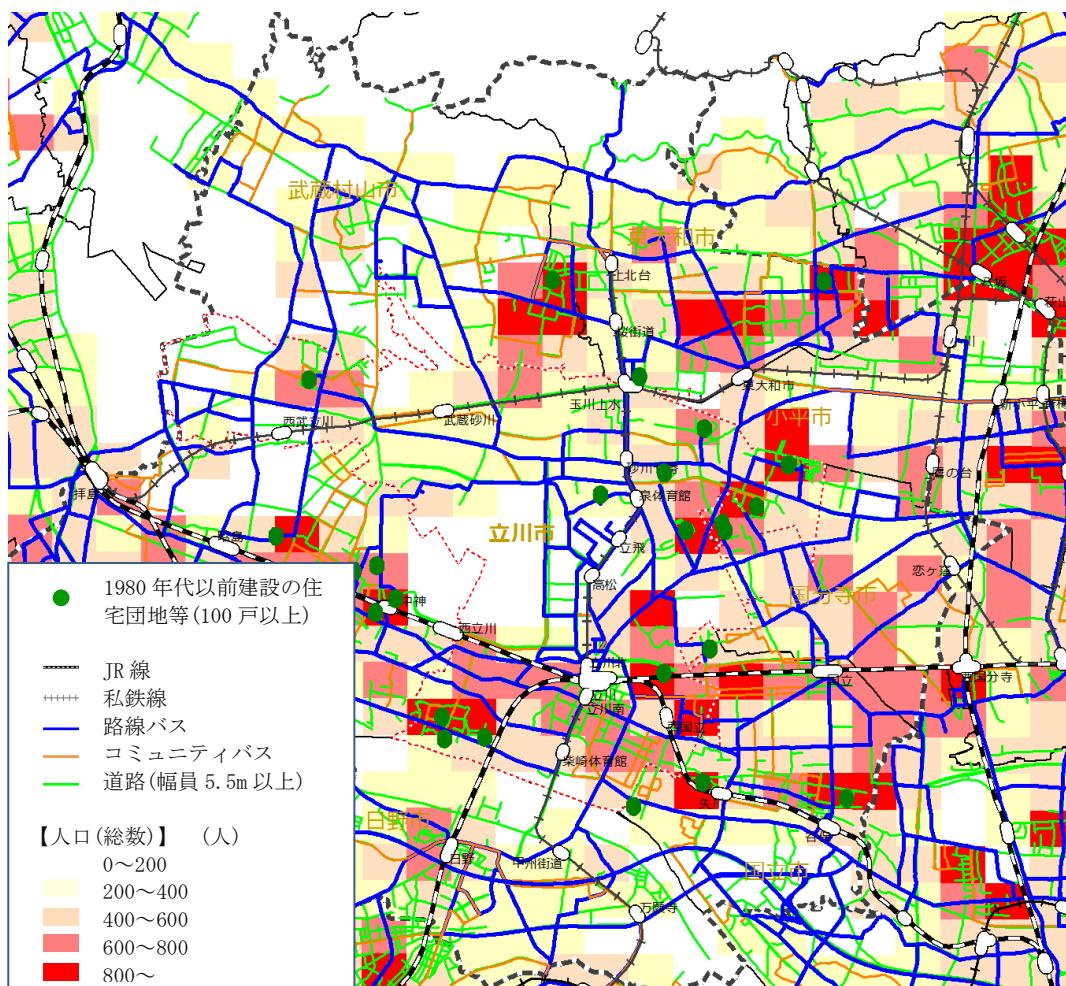


図 2-22 立川都市圏における高齢者人口(65歳以上)の分布状況

資料：バス路線：国土数値情報(H23)

道路：デジタル道路地図(H25)

国勢調査(H22) 4次メッシュ 65歳以上人口

※この地図は、財団法人日本デジタル道路地図協会のデータベースを使用して作成したものである。

2) 従業人口

立川市の従業人口は平成 21 年 7 月 1 日現在で約 119 千人となっており、市内の従業人口の約 80%が南地域と中央地域に集まっています。

産業種別では第三次産業が約 90%を占めていますが、高松町、上砂町、砂川町、一番町では第二次産業従業者の割合が比較的高くなっています。

表 2-6 立川市の産業種別従業人口(町別)

	総 数	第一次産業	第二次産業	第三次産業
市全域	118,617	36	11,245	107,336
南地域計	44,668	2	3,349	41,317
富士見町	6,253	2	769	5,482
柴崎町	14,896	0	732	14,164
錦町	20,928	0	1,455	19,473
羽衣町	2,591	0	393	2,198
中央地域計	49,921	0	3,515	46,406
泉町	3,387	0	492	2,895
緑町	4,665	0	61	4,604
曙町	37,104	0	1,739	35,365
高松町	4,765	0	1,223	3,542
北部東地域計	12,087	30	1,623	10,434
栄町	5,943	17	672	5,254
幸町	3,774	13	769	2,992
若葉町	2,370	0	182	2,188
北部中地域計	7,759	4	1,690	6,065
上砂町	1,888	4	519	1,365
砂川町	2,466	0	752	1,714
柏町	3,405	0	419	2,986
北部西地域計	4,182	0	1,068	3,114
一番町	2,141	0	731	1,410
西砂町	2,041	0	337	1,704

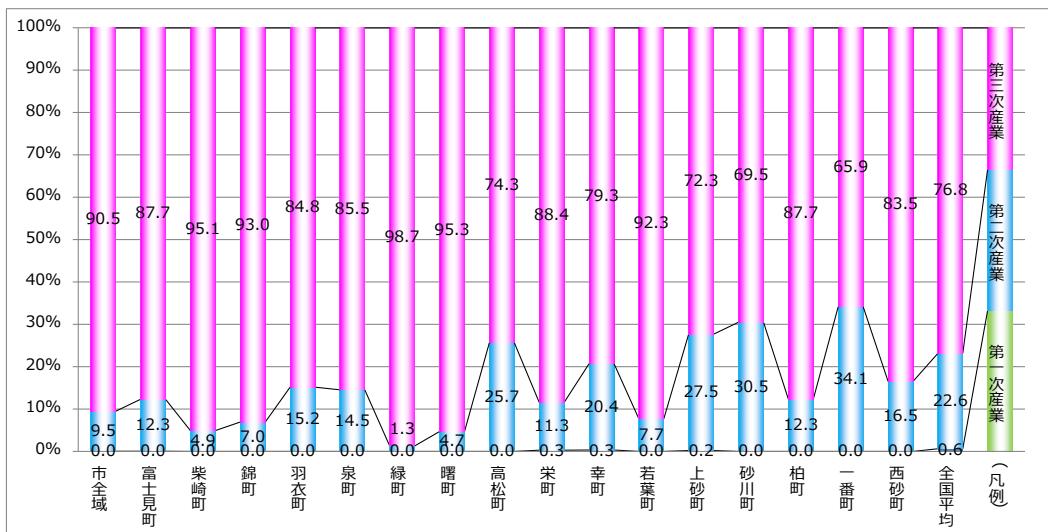


図 2-23 立川市の産業種別従業人口(町別)

資料：経済センサス(H21)従業者数

従業人口の分布

従業人口は、立川駅、国立駅、昭島駅、東大和市駅といった鉄道駅周辺や、イオンモールむさし村山周辺、工場の集積する中神駅北側、日野駅南側に集まっています。

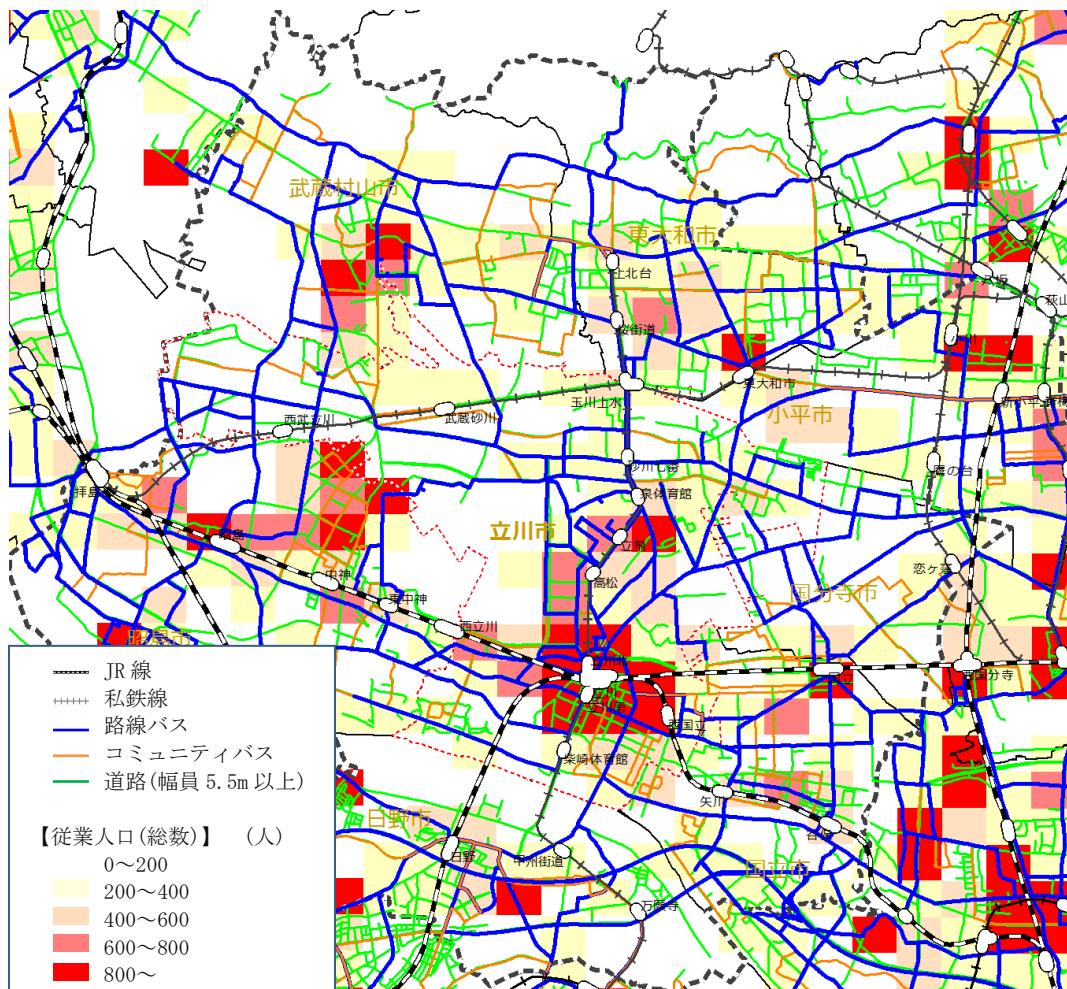


図 2-24 立川都市圏における従業人口の分布状況

資料：バス路線：国土数値情報(H23)

：道路：デジタル道路地図(H25)

：経済センサス(H21) 4次メッシュ従業者数

※この地図は、財団法人日本デジタル道路地図協会のデータベースを使用して作成したものである。

3) 都市機能を享受するための各種施設の立地

a) 用途地域

立川都市圏では、立川駅の他、鉄道駅周辺で商業系の用途が指定されています。立飛駅、桜街道駅周辺、立川市北西部から武藏村山市にかけての地域、昭島駅北部、日野市南西部などで工業系の用途となっています。

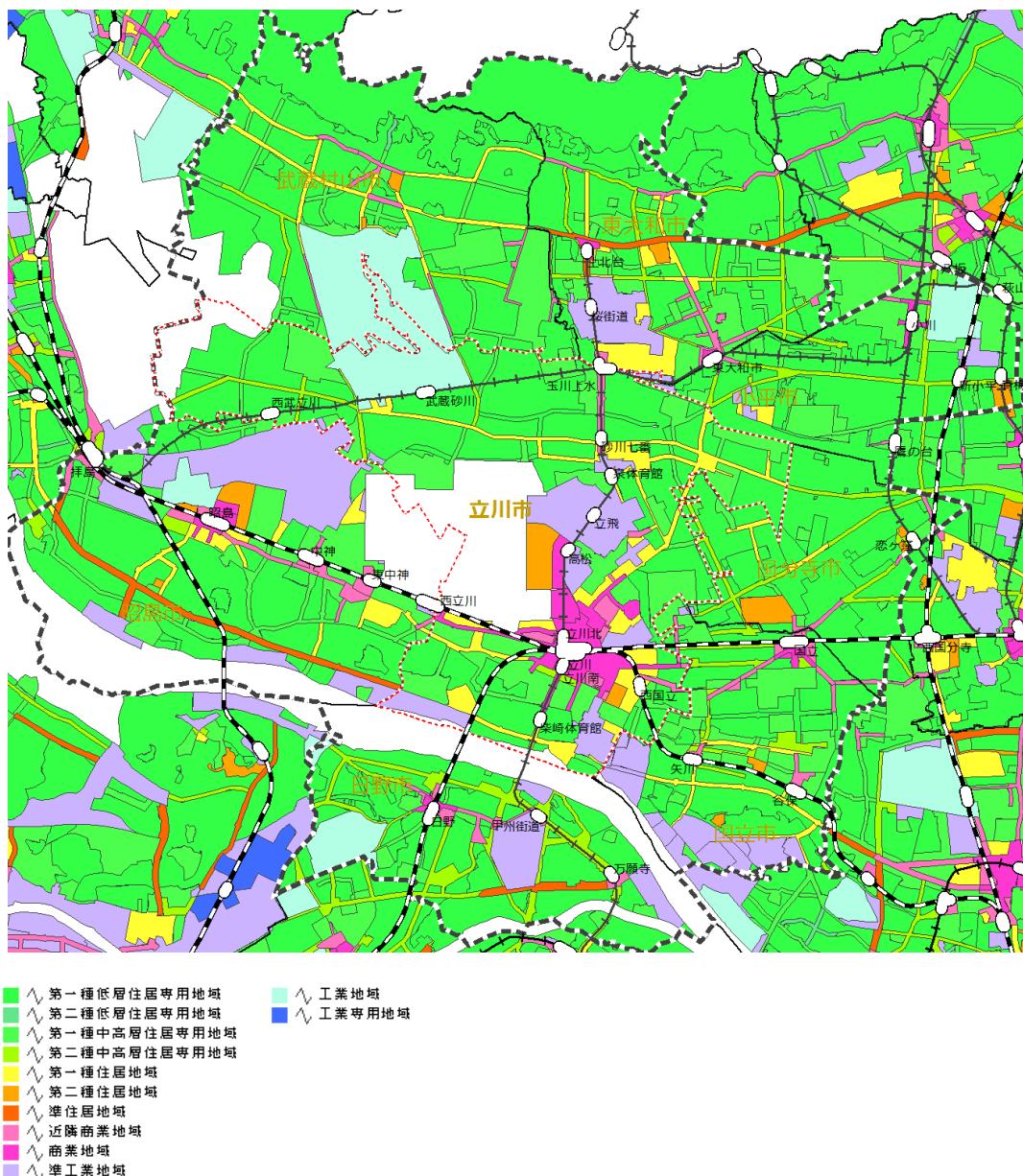


図 2-25 立川都市圏の用途地域指定

資料：国土数値情報(H23)

b) 土地利用現況

立川都市圏では、商業系の土地利用については立川駅周辺、昭島駅周辺で集積が高くなっています。また、立川基地跡地によって土地利用が分断されていることが特徴です。

また、都市圏の北西には武蔵村山市のイオンモールむさし村山が立地しています。その他、主要幹線道路沿いには、商業系の土地利用が進んでいます。

工業系の土地利用は、特に、立川市の基地跡地周辺、昭島駅北部、武蔵村山市の日産村山工場跡地の周辺、玉川上水駅の北側に集積しています。

五日市街道沿道では東西に農業関連の土地利用が分布しています。

工場跡地等の土地利用転換(日産自動車村山工場、東芝、日野自動車、立飛ホールディングス、昭和飛行機等)、農地等の土地利用転換などが進んでおり、今後も土地利用の変化により、都市圏内の都市活動が大きく変化することが想定されます。

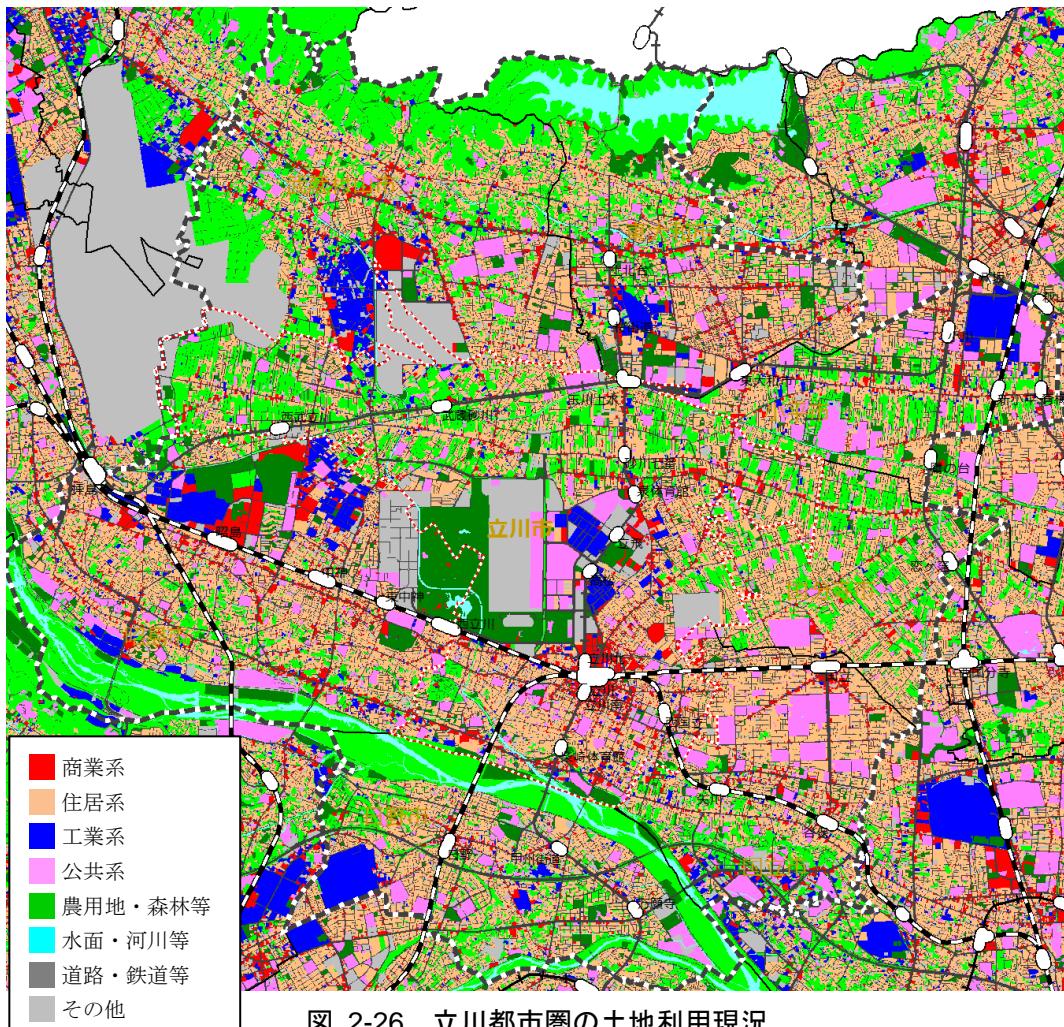


図 2-26 立川都市圏の土地利用現況

資料：土地利用現況図(H24)

c) 大型商業店舗の立地

立川都市圏では、立川駅などのJR沿線のほか、地域拠点の周辺に大規模商業施設が立地しています。立川駅やその周辺部では駅前、基地跡地、工場跡地などの開発により、新規の大規模商業施設が出店または出店予定となっています。他に大規模民有地も存在し、新たな開発も想定されます。このため、立川駅とこれら施設を結ぶモノレール沿線での交通需要の増加、周辺道路・駐車場の混雑悪化が想定されます。

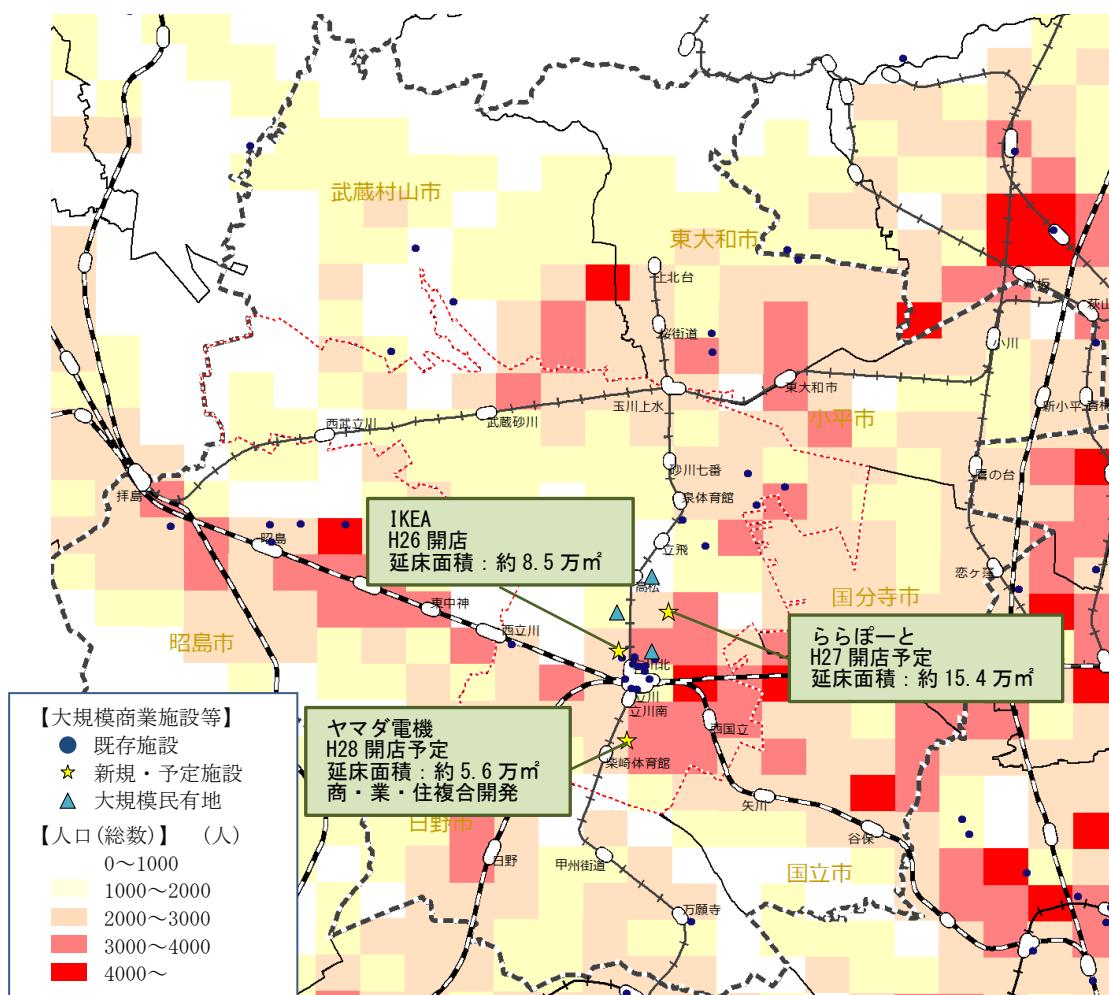


図 2-27 立川都市圏における大型商業店舗の立地状況

資料：大規模商業施設(3,000 m²以上)：2009 全国大規模小売店舗総覧(㈱東洋経済新報社)

メッシュ：国勢調査(H22) 4次メッシュ夜間人口

※新規・予定施設情報は各種報道より

例えば、「立川「ららぼーと」半年遅れ 開業、15年秋に」(2014/1/24 6:00) 日本経済新聞電子版(H26. 10. 確認)

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO65769690T20C14A1L83000/>

d) 病院・診療所の立地

立川都市圏では、立川駅や地域拠点の周辺に病院・診療所等の医療機関が立地していますが、高齢者が多く居住する地域にも診療所等の医療機関が多く立地しています。

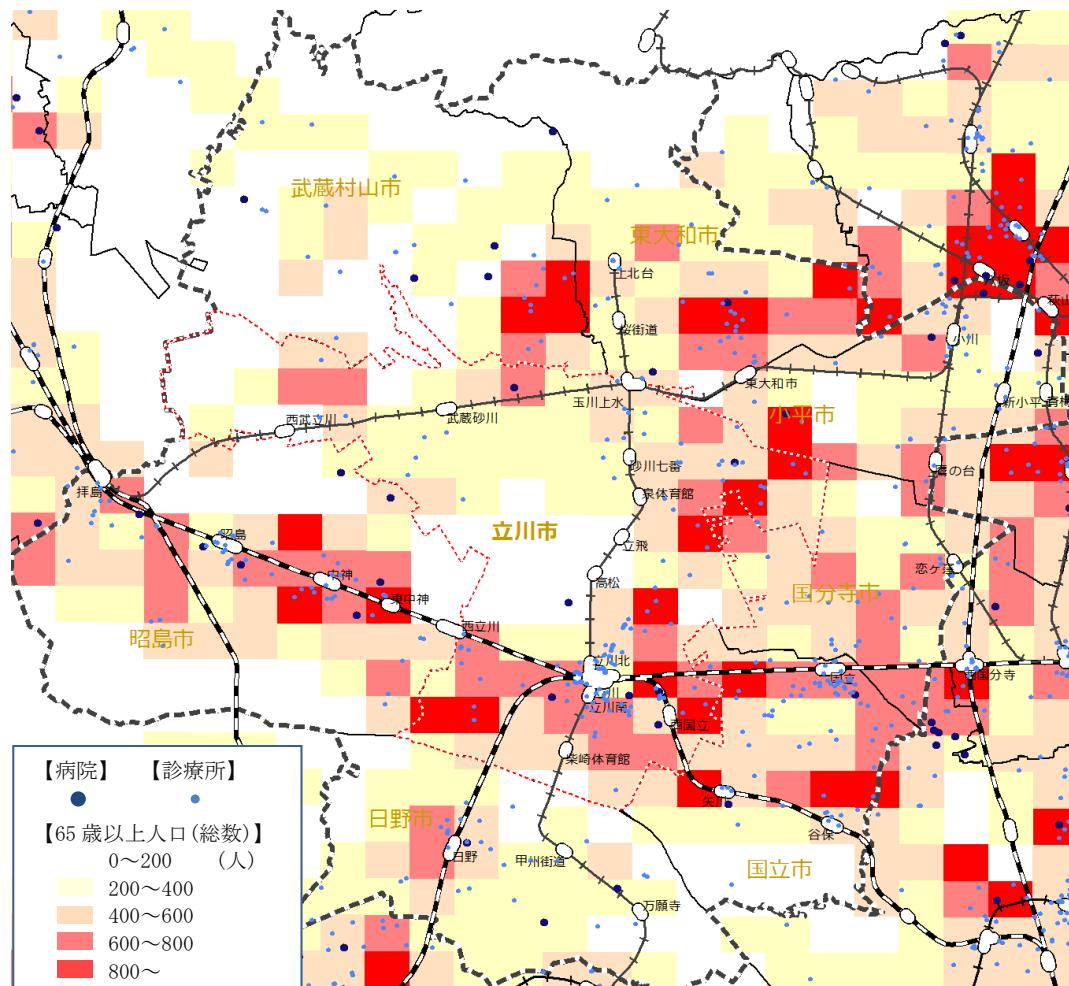


図 2-28 立川都市圏における病院・診療所の立地状況

資料：病院・診療所：国十数値情報(H22)

メッシュ：国勢調査(H22)4次メッシュ 65歳以上人口

e) 公民館・集会施設の立地

立川都市圏では都市圏全体に公民館・集会施設が立地しています。

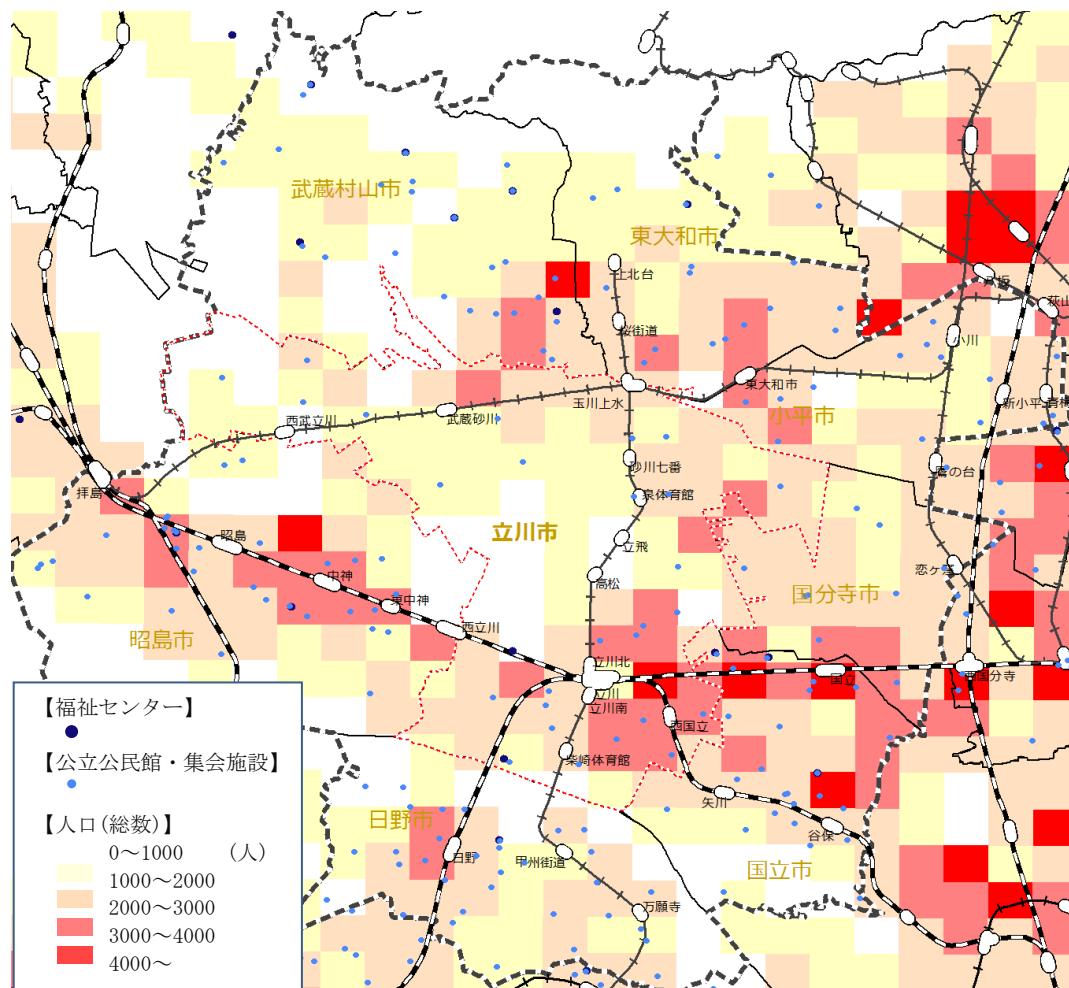


図 2-29 立川都市圏における公民館・集会施設の立地状況

資料：公民館・集会施設・福祉センター：国土数値情報(H23)

メッシュ：国勢調査(H22) 4次メッシュ夜間人口

f) 工場の立地(第二次産業従業者人口より)

武蔵砂川駅の北側や、JR 青梅線沿線の中神駅北側、日野駅南側に工場が集積しており、これらの地区で第二次産業従業者が多くなっています。

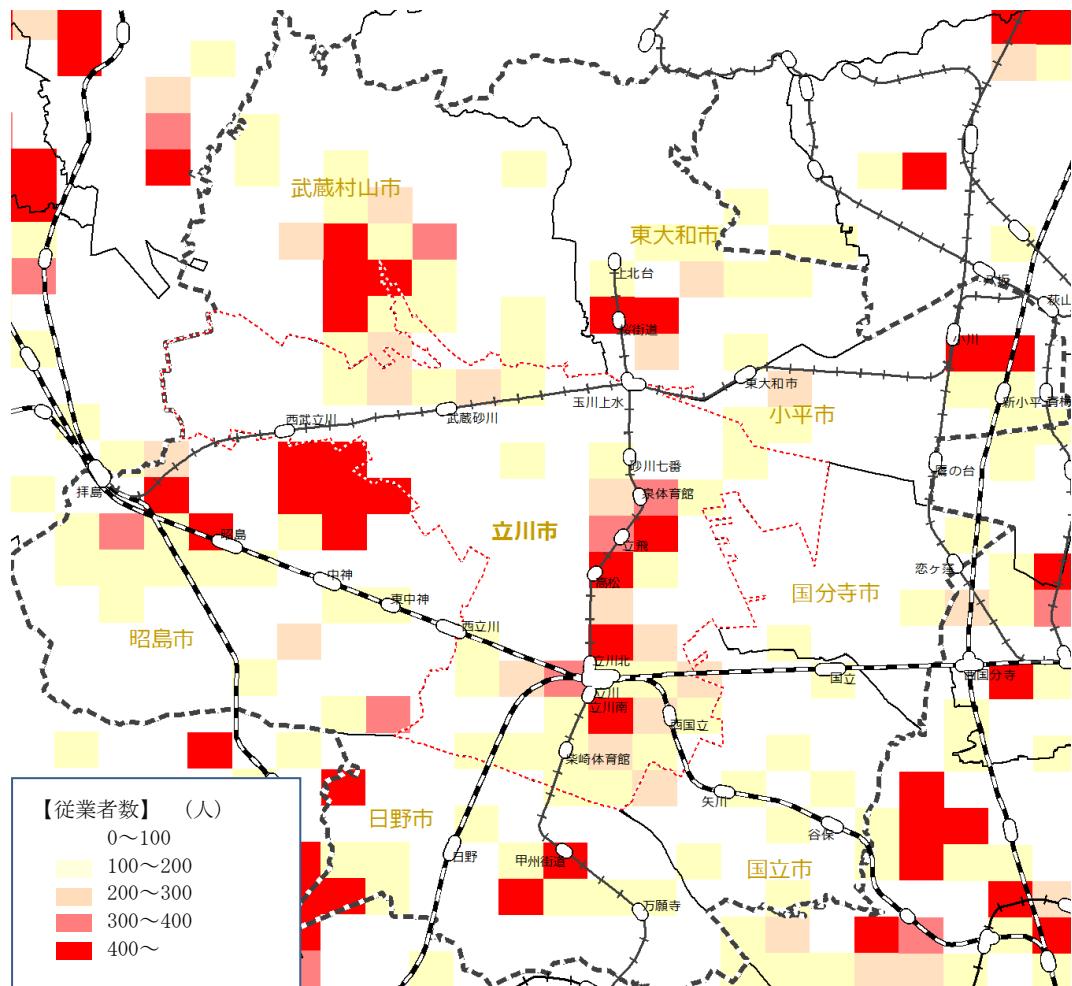


図 2-30 立川都市圏における第二次産業従業者の分布状況

資料：事業所・企業統計調査(H18) 4次メッシュ従業者数

g) 業務場所の立地(昼間人口より)

昼間人口は、業務・商業機能が集積している立川駅周辺、JR沿線や、西武拝島線とモノレールの結節する玉川上水駅周辺等に集まっています。

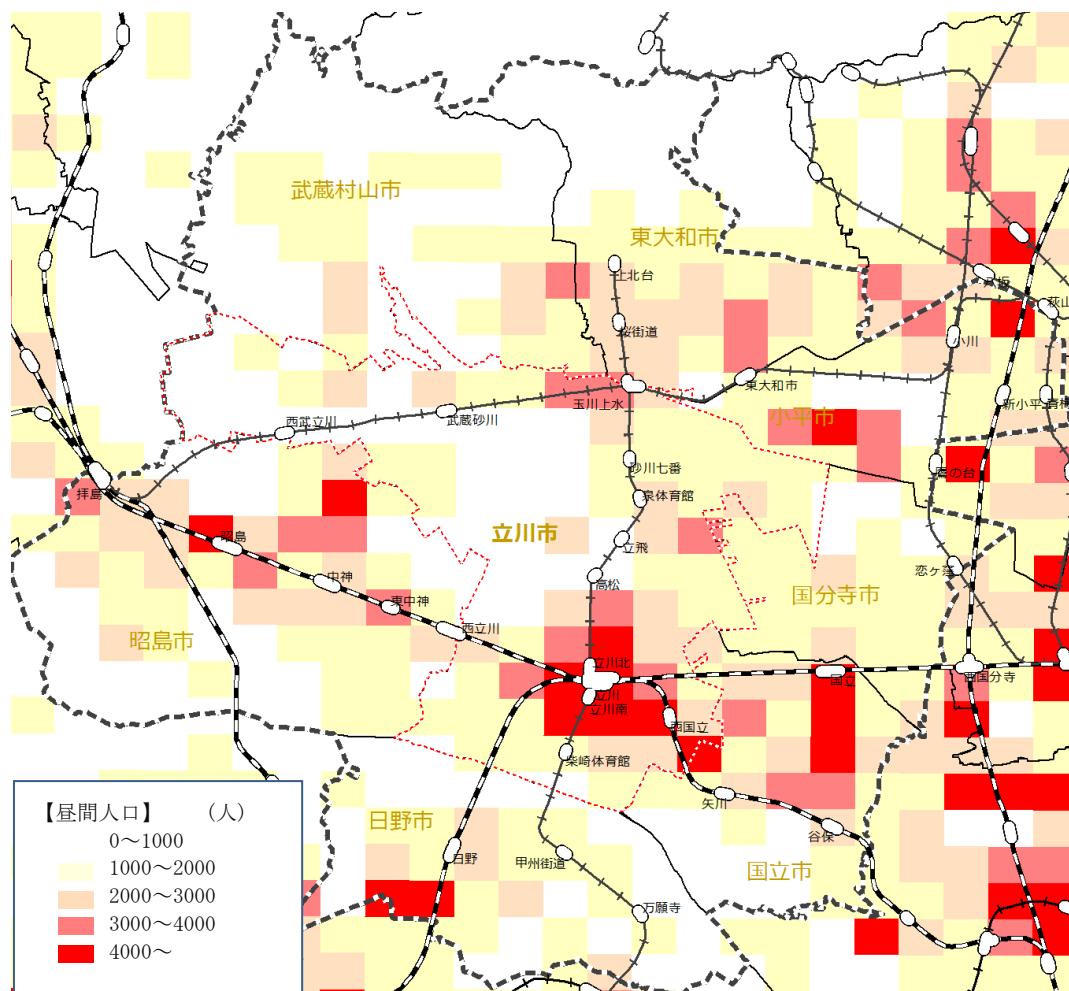


図 2-31 立川都市圏における昼間人口の分布状況

資料：国調・事業所リンク統計(H17) 4次メッシュ昼間人口

h) 防災拠点

緑町と泉町にまたがる地域に、都心の災害対策本部の予備施設として立川広域防災基地が設置されています。また、立川駅周辺には帰宅困難者一時滞在施設が7カ所指定されています(受け入れ者総数4,520人)。

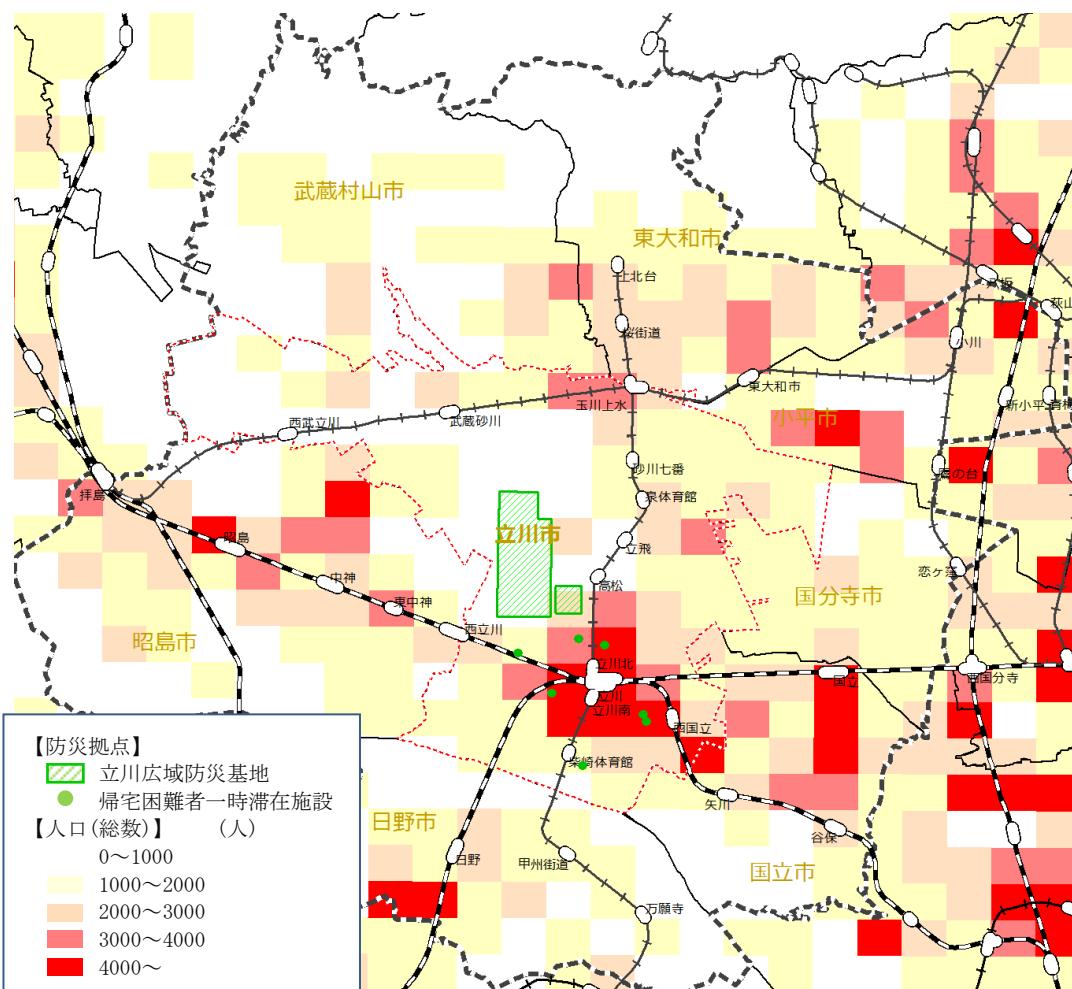


図 2-32 立川都市圏における防災拠点の分布状況

資料：国調・事業所リンク統計(H17) 4次メッシュ昼間人口

2-1(2) 土地利用に関する現状のまとめ

- 立川市は人口減少が始まったばかりであり、また高齢化率も 21.8%と東京都全体の高齢化率 21.9%とほぼ同様であることから、日本の地方部をはじめとした他都市でみられている少子高齢化に伴う問題の顕在化はそれほどみられていません。ただし、今後 10 年間で 65 歳以上となる 55 ~64 歳の人口が約 2.2 万人いることから、高齢化率が短期間で増えることが見込まれます。
- 立川駅周辺や基地跡地周辺では夜間人口に占める若者の割合が比較的高い一方、住宅団地の周辺等では高齢者人口が多くなっています。
- 土地利用をみると、基地跡地により市街地が分断されたまま形成されてきたことから、南部の立川駅周辺には商業系の土地利用、基地跡地周辺には公共系・工業系の土地利用が多く、北部の砂川地域では住居系と農地が混在した土地利用になっているなど、地域差が明確な都市構造であると言えます。
- 立川市には、商業施設、病院・診療所、公民館・集会施設、工場、業務場所、防災拠点など、自立都市圏の構成要素が主に鉄道・モノレールや主要バス路線の沿線に分布しており、人口もその付近に多く分布しています。